

## 令和3年度地方創生推進交付金充当事業の検証について

No.	1	事業名 (計画年度)	赤城山広域連携 サイクルツーリズム (令和3年度～令和5年度)	担当課	観光課
総合戦略の 位置づけ		基本目標	「ひと」の流れづくり		
		施策の基本的方向	スポーツや教育・文化による交流人口の拡大		
事業概要		<p>地域での観光消費を高め、新型コロナウイルスの影響により冷え込んだ地域経済の活性化を図るため、ウィズ・ポストコロナ時代に適合したコンテンツ重視の観光施策として自転車振興を推し進め、サイクルツーリズムの対象区域を拡大し、赤城周辺自治体（前橋市、桐生市、渋川市、みどり市）や民間事業者など地域の関係者が連携してナショナルサイクルルートの指定を目指したサイクルツーリズムに取り組む。</p> <p>当市としては、ルートとなっている赤城地区は、関越自動車道ICがあり、首都圏からのアクセスの良さが強みであるため、この取組を契機に赤城地区の観光資源をPRするとともに、交流人口を増やし市全体の観光振興を推進する。</p>			
令和3年度 総事業費 (渋川市支出分)	922,000円	令和3年度 総事業費 (4市合計支出分)	31,086,000円		
令和4年度 総事業費 (渋川市支出分)	922,000円	交付金の種類 (補助率)	地方創生推進交付金 (1/2)		
主な取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクルオアシス事業</li> <li>・スタンプラリー事業</li> <li>・赤城山 e-bike プロジェクト</li> <li>・赤城山サイクルツーリズム市場調査</li> <li>・赤城山サイクルツーリズムプロモーション</li> <li>・赤城山1周サイクルイベント（赤城山1周ライド・ぐるポタAKAGI）</li> </ul>			

重要業績評価 指標（KPI） 令和3年度実 績	指標①	観光入込客数
	目標値	684千人
	実績値	1,186千人 ※下記施設の入込み客数の合計 ・前橋市 ①あいのやまの湯②道の駅ぐりーん ふらわー牧場大胡③富士見温泉見晴 らしの湯ふれあい館 ・桐生市 ①道の駅くろほね・やまびこ ・渋川市 ①道の駅こもち②赤城自然園③赤城 第一直売所 ・みどり市 ①小平の里②まちなか交流館
	指標②	サイクリングガイドの養成人数
	目標値	6人
	実績値	6人 ※赤城自然塾主催のガイド養成プログ ラム研修の終了者数
	指標③	多機能ポータルサイトアクセス数
	目標値	337,500回
	実績値	559,804回 ※サイト「赤城山をあそぼう！Akag i T r i p」の閲覧数
	指標④	e-Bikeのレンタル台数（台）
	目標値	112台
	実績値	132台 ※スポーツタイプの電動アシスト自転 車の5箇所でのレンタル数合計 ①前橋市役所大胡支所②赤城公園ビジ ターセンター③前橋駅（両毛線）④中央 前橋駅（上毛線）⑤赤城駅（東武桐生線）

<p>事業効果</p> <p>※選択肢</p> <p>① 地方創生に非常に効果的であった</p> <p>② 地方創生に相当程度効果があった</p> <p>③ 地方創生に効果があった</p> <p>④ 地方創生に対して効果がなかった</p>	<p>②地方創生に相当程度効果があった</p>	
<p>事業効果の 選択理由等</p>	<p>各事業の企画から実施期間に渡りコロナ禍となり、全国的に多くのイベントが中止となった中で、赤城山周辺市が連携して事業を実施することができたことは赤城山広域観光振興の大きな第一歩となった。重要業績評価指標（K P I）において、各指標の実績値が目標値を上回ったことや、アンケート結果での参加者満足度の高さ、SNSやウェブ記事の好意的な反応等を考慮すると、赤城山サイクルツーリズムのPR効果としては高い成果をあげられたと考えられる。</p> <p>当市としては、サイクルイベント参加者に、市の観光パンフレットの配布や、赤城地区を代表するグルメを振る舞うおもてなし等を行い、イベント後も再訪してもらうよう市の観光資源をPRした。これにより参加者のリピート率が向上し、赤城地区以外の周辺施設、観光スポットへの来訪も期待できるものとする。 こういった状況をふまえ、本事業は「地方創生に相当程度効果があった」とした。</p>	
<p>実績値を 踏まえた 事業の今後について</p>	<p>今後の方針</p> <p>※選択肢</p> <p>① 追加等更に発展させる</p> <p>② 事業の見直し(改善)</p> <p>③ 事業の継続</p> <p>④ 事業の中止</p> <p>⑤ 予定どおり事業終了</p>	<p>③事業の継続</p>
<p>理由</p>	<p>参加者や協力各施設の満足度は高かったものの、コロナウイルス感染拡大の影響で、総じてイベントの公表が遅れたため、告知不足となり計画どおりの集客ができなかった。早期からの告知や魅力的なゲストライダーの人選を通じて更に活気づいたイベントとしたい。本事業を継続することで赤城山ツーリズムの全国的な認知度向上と、赤城山周辺地域全体でのおもてなし体制の熟度を高め、広域的な地域振興の実現が可能であるため、「事業の継続」とした。</p>	

	事業の評価	地方版総合戦略の KPI 達成に有効であった	○
		地方版総合戦略の KPI 達成に有効とは言えなかった	
外部有識者からの評価	外部有識者からの意見	<p>4自治体での地域連携事業であり、観光分野において複数自治体が連携して1つの事業を実施できている点は評価できる。</p> <p>本事業は赤城山周辺での事業となっており、市内の他の観光地に効果を波及させるためには、どのようにアプローチしていくか、あるいは今後の事業継続について、民間資金をどの程度調達していくかという課題もある。更に検討を進めていく必要がある。</p>	